

スマイルふぞく



「北斗の丘」を再生したい！

スマイル附属に欠かせない一つに、「一生の友に会い語り合う学校」でありたいという願いがあります。そこに大きく影響するのは子供が過ごす環境です。学びを紡いでいく教室環境は、平成24年度の校舎改築によって、豊かな学びを保證する空間として充実しています。

注目すべき場所は、遊びで心を豊かにする運動場や中庭。そして、附属の思い出を語る時に必ず登場するアスレチックのある「北斗の丘」、ビオトープがある「みんなの森」です。

入学したての1年生が6年生に連れられ、イカダで遊びアスレチックを駆け回るのが附属流の遊びの始まりでした。イカダから池に落ちて嬉しそうに笑っている姿に、北斗の子の逞しさを感じていたものです。

子供たちの安全・安心を守る定期検査によって、木材の老朽化が判明し、現在は使用を一部停止しています。それもそのはず、過去に遡り調べてみますと、今から38年前の昭和58年に北斗の丘は完成しています。途中何度か改修を行い、直近では11年前の平成22年です。

そこで、北斗の子を逞しくし、友達との仲を深める「北斗の丘」を再生し、水辺と木陰を楽しむ「みんなの森」を整えるのが、スマイル附属に近づく大きな一歩だと考えています。

リーダー6年生が動き出しました！

実はイカダで遊んだ最後の1年生が、今の6年生です。あの楽しさを今の1年生にも、これからの後輩たちにも味わってほしいと願い、北斗の丘を再生させようと様々な探求に取りかかっています。「自分たちの学校は自分たちで創る」というスマイル附属が目指す北斗の子が、この6年生から始まります。

6年生の心意気に応えるため、学校・育友会・後援会・保護者OBの力を結集し、バックアップをお願いしたいと思います。今後は、進捗状況を随時お知らせしていきます。



アスレチックの現状を調べる6年生



北斗の丘の丸太を調べる6年生



ビオトープを調べる6年生



S58年完成当時の北斗の丘

輝き

家に帰ってから、ある写真を眺めていました。子どもたちと教育実習生が出会った5月12日（水）の写真です。その写真の中の教育実習生は、笑顔なのですが、ぎこちなさが残っていました。自然体ではないのです。どこか引きつった笑顔のように見えるのです。

では、27日（木）の実習最終日の教育実習生の表情はどうでしょう。子どもたちの中にまみれ、マスクを着用しても分かる「心からの笑顔」が画面いっぱいに写っていました。コロナ禍の中においても、子どもたちと本気で過ごした結果がそこにあったのです。

教育実習終了を迎え、子どもたちと離れるのはさびしいでしょう。私は、次のような言葉を贈り、教育実習生のこれからの活躍を祈念します。

「天は二物を与えないというが、裏を返せば必ず一物は与えている」

星には、一つ一つの「輝き」があります。子どもたちにも「輝き」があります。同じように、教生一人一人にも「輝き」があるのです。一人一人の「輝き」を放ち、夢を叶えてほしいと心から願っています。

文責 教頭 松永

黒板から

最近、教室の黒板に「気持ちのよい挨拶が嬉しいです。」「無言掃除ができていますね。」等と、各学級が意識し、成長したことについて書かれています。そして、その言葉を見ながら、嬉しくなります。

では、子どもと教員が、意識し続けるだけで、子どもは成長するのでしょうか。

結論から言うと、意識するだけでは成長できません。やはり、実態に合った「内容」と「タイミング」が大切なのです。

実際、人の成長も企業の進化も、内容はもちろんのこと、「タイミングが大切である。」ということが分かっています。

附属小は、子どもの可能性とチャンスを最大化するために、意識する内容とタイミングを大切にしています。実態を見つめ、その瞬間や時機を見逃さない指導が、全ての子どもの確かな成長を支えていると改めて実感したところでした。

文責 主幹 池田

うれしい電話

職員室では、保護者の方をはじめ多くの電話をお受けします。その内容も多種多様です。先日、大雨の日の朝に次のような電話を受けました。

近所のバス停近くに附属小学校のお子様か傘をささずに歩いています。心配ですので、私の傘を貸してバスに乗せますね。

大雨の中、濡れる本校の子どもを気遣うお電話でした。

また、ある日の夕方に

そちらのお子様のものと思いますバスカード入れを拾いましたので、今から届けますね。

わざわざ学校に届けてくださり、「きっと親子で困っていることでしょうね。私の娘と息子も20年前に、お世話になりました。」と嬉しそうに帰っていかれました。

広範囲の校区を抱える本校。その中で、多くの方の優しさに支えられていることを改めて感じさせられました。

文責 教務 橋田